

やっぱり、
行き着いたらそこに
行く(笑)。
ワインテージの扱い。

PROFILE



ドックリー・ファーム新築棟の店長、藤原慎賢くん。本日は「サイズが気に入っている」という古着のシャツとレギュラーの501をなにげなく着こなしシンプルないで立ち。

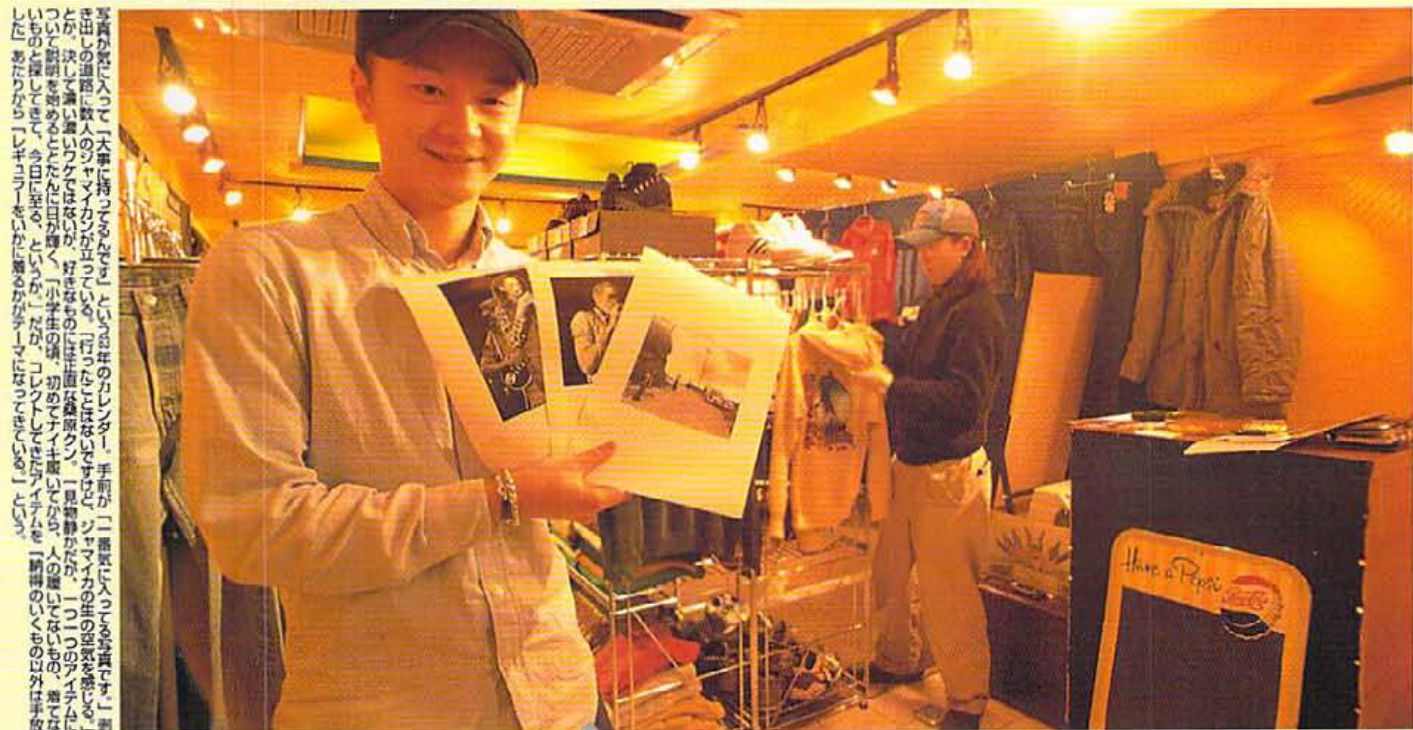
着たいもの、コレクトアイテム。
好きなものを手に入れている。

スニーカーにはまって10年。セレクトの末残った特別お気に入りの4足。カラーリングが抜群なアディダスのハワイやC.C.A.Pの記名に注目(今はENCAP)のNB576、88年のナイキ・ウィンドランナー・エスケープ、中でも「ブラックの素材といい、足首のサポートやホールドといい、履き心地が抜群」と絶賛なのが、ナイキACGエア・モアブ。



レディースだけど「クリオ・ブルーはけっこう好みだったので。」撮影当日もすべてクリオ・ブルーだった藤原くん、フリーメーソンのリングは大阪で¥70,000でゲット。

御幸町を起点にポンポンと出店が続いたドックリー・ファームの新築棟店の店長を務める藤原くん。古着は当然ワインテージにこだわることだ。多分のもれずワインテージには相当「執心」さやレア・アイテムをコレクトしていると思いきや、「持っているものはほとんどは手放してしまっ」と言う。上がる一方で表裏することのないワインテージ人気が、高値を付けるものもあつたが、誰もが欲しがるようなものでもなく、スニーカー等でもまず履き心地、カラーリングで選んで、「それ以外の納得いかないものは手放した」と言う。それよりも「今は普通の、レギュラーのものをいかに着ていくか、がテーマ、かな。」ワインテージは持っているものも着ることは少ない。「行き着いたら、そこに行く(笑)ていうか、ほとんどおもしろやと同じ、コレクター・アイテム(笑)。」本当に好きなものだけを所有したい。セレクトもまたコレクトの極意なり。



写真が気に入って「大事に持っておきたい」といふ年のカレンダール。手前が「悪気に入っている資料です」と書き出し、道端に数人のシャマイカが立っている。「行ったことはないです」と、シャマイカの空気を察する。とか、決して悪い言い方ではないが、好きなものには正直な藤原くん、「見物ですが、(一つのアイテムについて)お話を聞くと、今日に至る、というか、コレクトしてきたアイテムを「お得意のいくもの以外手放した。おたから」レギュラーをいかに履くかテーマになってきている」といふ。



シャツは「僕はボタンダウンしか着ないです」とか、色、サイズ、素材共に一番気に入っているのがこのM C G R E G O Rのシャツ。電話でお取り置きフェリーに集って徳島まで取りに行ったビックEのボーイズ・サイズのデッドストック¥3,000。



エア・ジョーダンに密せる思いから派生して、マイケル・ジョーダンに関するアイテムも所有。シカゴ・ブルスの実使用のものと同素材のオーセンティック・ジャージは日本未発売。ハワイで購入。「100ドルくらいでした。」



レゲエにはまったのは「20くらいかな。ポップ・マーリーから入って、でもモッズなんか好きで、英国の古い音楽から誘って聞いてたから、目の肥がりの一環、という感じですね。」古本屋を探しても見つからない、という二冊と今は見かけない表紙の「レゲエ・ブラッド・ライン」。



履き心地、シンプルな形、素材共に「コンバースのオールスターは好きなので今も10足ちょっとは持ってますね。」手前左はラスベガス大学の購買で専属販売のもの、右はフットロッカーで贈られた珍しいギンガム・チェック、奥はクリスマスのディスプレイ用のもので超レア。



本当にかわいい「蒸気船ワッシャー」の頃の3千円のレプリカは、¥2000くらいで購入。「無理やり買かせた」これも本物のエア・ジョーダンと並びさせて、かわいさ倍増。



取材・文/端井由紀子 写真/武蔵育子
発売しすぐアンテナを伸ばし、オールド・カナル・バブルは、代わりなくの「オールド・カナル・バブル」は、多くの人々を魅了。「いいじゃん、ウツチ」

MY FAVORITE THINGS